

事務事業名	保健衛生事務経費			担当課	健康福祉部健康推進課
対象	全市民			事業期間	
目的	保健衛生に係る総合的な事務を円滑に進める				
根拠法令等	伊賀市骨髄移植ドナー支援事業助成金交付要綱				
内容	保健衛生に係る一般事務 三重県市町保健師協議会負担金、献血推進事業事務、公衆浴場確保対策事業、骨髄等移植ドナー支援事業				
	墓地埋葬法第9条に係る死亡人取扱(市民生活課)				
事業に要した 主な経費 など	経費	金額	摘要		
	消耗品費	62,876円	0	円	
	負担金	13,936円	三重県市町保健師協議会負担金等	円	
	補助金	60,000円	献血推進事業補助金	円	
		330,000円	公衆浴場確保対策事業費補助金	円	
		140,000円	骨髄等移植ドナー支援事業助成金	円	
		円	0	円	
	扶助費(市民生活課)	450,920円	墓地埋葬法に係る死亡人取扱費道	円	
	使用料及び賃借料	2,480円	路通行料	円	
		円	0	円	
計	1,060,212円	0	円		

補助金等詳細

項目	R2年度決算	R3年度当初予算	R3年度決算	R4年度当初予算	特記事項記入欄(積算基礎、特定財源の名称等)		
国県支出金	679	1,276	514		○令和3年度歳入決算 県骨髄移植ドナー助成事業補助金:70千円 看護実習生指導費:59.5千円 墓地埋葬法第9条負担金:444千円 ○令和4年度歳入予算 県骨髄移植ドナー助成事業補助金:70千円 看護実習生指導費:63千円 墓地埋葬法第9条負担金:1,260千円		
地方債	0	0	0				
その他	97	57	60				
一般財源	589	608	487				
合計(A)	1,365	1,941	1,061	0			
正規職員	業務量	0.15 人	0.15 人	0.35 人		0.35 人	
	人件費	1,172	1,165	2,718		2,708	
	再任用職員	業務量	0.00 人	0.00 人		0.00 人	0.00 人
	人件費	0	0	0		0	
	会計年度任用職員	業務量	0.00 人	0.00 人		0.00 人	0.00 人
人件費	0	0	0	0			
小計(B)	1,172	1,165	2,718	2,708			
合計(A+B)	2,537	3,106	3,779	2,708			
市民1人当たりのコスト(円)	29	35	43	31			

指標名	指標の説明	単位	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
0		0				
指標化できない成果	0	達成				

方向	課題	
	改善案	

補助事業名	献血推進事業補助金				施策No.	1-1-①					
交付の目的	献血思想の普及啓発および献血者の確保を図る。										
交付先・交付要件	伊賀市献血推進協議会伊賀市上野丸之内500 ハイトピア伊賀4階										
事業内容	献血推進協議会が行う献血の推進に要する経費への補助										
根拠法令等	健康福祉部関係補助金等交付要綱										
事業開始年度	平成16年度					契約・債務負担	無				
財源・率	-					上乗せ・範囲拡大	無				
補助実績等(千円)	H26	90	H27	90	H28	90	H29	60			
	H30	60	R1	60	R2	60	R3	60			
目的の達成状況(何が、どうなれば達成か)	安心・安全な血液の確保のため、献血思想の普及及び啓発を継続する。										
補助対象経費	定期献血協力者粗品代、献血推進イベント経費										
補助金額・補助率の算出根拠	協議会運営費のうち、献血事業推進に要する経費の範囲内	類似制度、同一団体への重複補助の有無	無				終期設定の有無	無			
性質別分類	1. 団体運営補助	「団体運営補助」である場合の事業費補助への移行策	協議会運営費のうち、献血推進に要する経費を予算の範囲内で補助対象としている。(継続)								

●見直し目標の設定及び経過措置(指針「4 見直しの方向性と経過措置」参照)

今後の方向性	継続	その理由	献血への協力を呼びかけ、血液を確保する必要があるため継続する。
見直し事項	具体的な内容(いつまでに、事項を、どうする)		
補助制度	なし	対象と金額	なし

●補助金等の評価(指針「5 その他の取り組み」参照) ※実績確定後、年度ごとに記入

	評価結果	立入調査その他監督の実施状況	改善点・今後の予定・見直しの実施状況
平成30	安心・安全な血液の確保のため、献血思想の普及及び啓発を行った。	決算書及び出納書により補助対象経費に対する支出がなされていることを確認した。	安定した血液確保のため献血思想の普及及び啓発が必要であることから、協議会のより一層の取り組みが必要である。
令和元年	安心・安全な血液の確保のため、献血思想の普及及び啓発を行った。	決算書及び出納書により補助対象経費に対する支出がなされていることを確認した。	安定した血液確保のため献血思想の普及及び啓発が必要であることから、協議会のより一層の取り組みが必要である。
令和2年	安心・安全な血液の確保のため、献血思想の普及及び啓発を行った。	決算書及び出納書により補助対象経費に対する支出がなされていることを確認した。	安定した血液確保のため献血思想の普及及び啓発が必要であることから、協議会のより一層の取り組みが必要である。
令和3年	安心・安全な血液の確保のため、献血思想の普及及び啓発を行った。	決算書及び出納書により補助対象経費に対する支出がなされていることを確認した。	安定した血液確保のため献血思想の普及及び啓発が必要であることから、協議会のより一層の取り組みが必要である。

●補助金等の見直し基準における基本的事項の再チェック(指針「3 見直し対象と基準」参照)

区分	項目	チェック	備考
公益性	「公益上必要である」ことが客観的に認められるものである。	○	
	事業活動の目的・視点・内容などが経済情勢に合致している。	○	
必要性・効果	市民の福祉向上及び利益の増進に効果が認められる。	○	
	市が補助すべき事業・活動であり、施策の推進に有効である。	○	
	補助金の額や補助率に対して、費用対効果が適切である。	○	
公平性	地域間で補助対象、補助基準、支出科目にばらつきはない。	○	
	同一分野のなかで、特定団体(地域)を対象とした補助金ではない。	○	
団体の自立性	毎年同内容の事業に対して、3年以上補助を受けていない。	○	
	自主財源の確保など、自らの努力で団体運営を行う姿勢がある。	○	

見直しの視点	質問/所属回答						専門家チームからのアドバイス・考え方
	専門家チーム	所属	専門家チーム	所属	専門家チーム	所属	内容
法的根拠							<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>セルの塗りつぶしについて</p> <p>■■■■■■■■■■ …… 全庁的な指摘事項（個別の意見聴取せずに全庁で取り組むべき内容）</p> <p>■■■■■■■■■■ …… 個別の指摘事項として、「対応方針」を確認する内容</p> </div> <p>補助金はカットしていけば良いというものではない、必要なところには必要な補助をするのが正しい。</p>
積算根拠					金額は足りているのか？	市では過去に3割カットとして9万円から6万円になった経緯がある。市からの補助のほか、医師会から9万円補助がある。今の市内の献血率は高く、ボランティアなどの関与もあり円滑に進んでおり、この状況で良いと考えている。	
							何に補助金を使っているのかが大事であるが、定額補助となっているため、使途が分からない。また、必要なものに使われていないということがないように続けていかなければいけない。
終期設定							
自己負担・決算内容							
公益性							
公平性・透明性	どこに出している補助金か？	伊賀市献血推進協議会。事務局は健康推進課内。					
	どういう団体が入っているのか？	市内の40団体入っていて、事業者や商工会議所や医師会で構成している。					
行政関与の必要性	団体の運営を行政が行うことは望ましくないが、連絡協議会のようなものは致し方ないところもある。	県では保健所が事務局を行っているのですが、そことの連携を考えると市が事務局を持つ必要があると考えている。					連絡協議会であってもケースバイケースでどこが事務局を持つのかを考えていければ良い。
補助の効果（成果指標）							
今後の方向性							
他事業への横展開							

	見直しの視点	指摘事項	対応方針	いつまでに
部局対応方針 個別論点ごと	積算根拠	何に補助金を使っているのが大事であるが、定額補助となっているため、使途が分からない。また、必要なものに使われていないということがないように続けていかなければいけない。	補助対象経費は、献血協力者への粗品代や献血推進イベントの経費となっている。これは、市が事務局となっている為、補助金の使途については把握できており、また、最低限の必要経費であると判断の上、引き続き継続していくものとする。	実施中
	本事業に関する今後の方向性	継続		
	上記理由	毎年、三重県献血センターによる献血計画に基づき、血液センターと三重県と伊賀市が協力を図り、安心・安全な血液の確保の為、献血思想の普及や啓発が必要であることから、より一層の取り組みが不可欠となる。		



諸問時の視点	<ul style="list-style-type: none"> ・現状、伊賀市内の献血率は高いが、補助金による効果であるかどうかの判断ができない。 ・感染症など社会情勢により血液不足が懸念される中、場合によっては補助金の拡充も必要であると考えられるため、しっかりとした成果指標を設ける必要がある。 ・6万円という少額補助であれば、CSRの一環として、協定を結んでいる民間事業者との連携事業への見直しも考えられるのではないかな。
--------	---



レビュー結果に対する審査会評価	
-----------------	--